

福島県の太平洋側に位置する浪江町。

海の恵み、山の恵み、そして海と山をつなぐ川の恵みの豊かな土地です。江戸時代から良港として活用されてきた請戸漁港は季節ごとに豊富な魚介類を水揚げしてきました。浪江町内で海と山をつなぐ高瀬川と請戸川の河口付近には東北最大規模の鮭のヤナ場があり鮭料理は浪江の郷土料理の一つです。山の恵みである土からは、大堀相馬焼という伝統工芸が生まれ人々の暮らしを彩り、町外に向けた産業の柱でもありました。

2011年3月11日の東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所事故により、浪江町は近隣の双葉郡内の町村同様に全町避難となり、浪江町役場は福島県二本松市へ避難。町のみなさんも二本松市をはじめ全国に避難されました。2017年3月31日に一部地域の避難指示が解除され同年4月に町役場が浪江町内に戻りました。一部地域では居住も可能となりましたが、新たな土地での暮らしをはじめられた方、今もまだ避難生活を続けている方もいらっしゃいます。

ライフミュージアムネットワークでは浪江町のみなさんにとって「大堀相馬焼」がどのような存在なのかを探る事業の一環で、今年度で休校する二本松市内の津島小学校と昨年度で休校した浪江小学校のこの10年間の「ふるさとなみえ科」の取り組みを「博物館」として残すお手伝いをしました。大堀相馬焼をはじめ浪江町の歴史と文化、そして第二の故郷となった二本松の歴史と文化を学び、二つの土地の架け橋になろうとした小学生たちの10年間は、2011年以降の浪江町、そしてそれ以前の浪江町を残し、伝えようとするものでした。

本ディスカッションでは、子どもたちのそのような活動を「博物館」づくりからご紹介すると同時に、小学校が閉じることの意味や土地と結びついてきた伝統産業の在り方なども含め、浪江町の地域の記憶をいかに残し、伝え、未来の創造に繋げていくのかを講師のみなさんのお話から考えたいと思います。

子どもたちの想いに大人はどう応えるのか。応えられるのか。ぜひみなさまの声をお聞かせください。

▶ 講 師

西村 慎太郎氏（人間文化研究機構国文学研究資料館准教授／NPO法人歴史資料継承機構じゃんびん代表理事）  
原田 雄一氏（浪江小学校津島小学校を応援する会会長／浪江町商工会顧問）  
三原 由起子氏（歌人）

▶ ディスカッションモデレーター

川延 安直（福島県立博物館副館長／ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局）

▶ 報 告

小林 めぐみ・平澤 慎（福島県立博物館学芸員／ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局）

定員：10名（要申込・先着順）／参加費：無料 \*申込方法：電話かe-mailでお申込みください。

浪江の記憶の  
方。伝え方。  
残し方。

1 / 11

MONDAY 2021

13:30~15:30

会場：二本松市市民交流センター  
第2会議室





## 講師プロフィール

### 西村 慎太郎

歴史学者。専門は日本近世史。NPO法人歴史資料継承機構じゃんぴんを立ち上げ民家に残る古文書保存活動を行っている。2012年より浪江町・双葉町にまたがる両竹(もろたけ)地区の古代からの歴史と文化を継承しようとする活動を支援。『大字誌両竹』を10年間で10冊刊行する企画を進行中。『大字誌両竹』1(蕃山房)が2019年に、『大字誌両竹』2が2020年に出版された。

### 原田 雄一

大学卒業後、浪江町の家業・原田時計店に入る。2011年原発事故により二本松市に設置した浪江町商工会仮事務所に移り、避難先で会社も再開。2012年まちづくりNPO新町なみえ設立、初代理事長就任。2012年浪江町商工会会長就任。2018年退任、同顧問就任。2011年より二本松の仮校舎で再開した浪江小学校・津島小学校の支援を続けてきた。

### 三原 由起子

浪江町生まれ。実家は浪江町にあった『乗り物センター 三原』。小学生の時に浪江町のふるさと創生事業の劇団コスモスに参加し、世代を超えた交流を深める。中学時代の恩師に勧められ、高校時代から短歌を作り始める。震災後はいわきアリオスのタイムカプセル事業等に参加。2013年第一歌集『ふるさと赤』(本阿弥書店)を出版。現在、現代歌人協会会員、日本歌人クラブ参与。

主催:ライフミュージアムネットワーク実行委員会

協力:浪江町立津島小学校

※新型コロナウイルス感染症の影響により、内容に変更が生じる場合があります。



## [ ライフミュージアムネットワークとは ]

福島県立博物館は、2011年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後、文化庁の支援を受けた「はまなか・あいつ文化連携プロジェクト」「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の事務局をつとめ、さまざまな文化芸術による復興支援事業を実施してきました。

その過程で浮かび上がってきた課題は、福島、東北、被災地に限らず、日本各地に共通するものであり、解決方法を導き出すべく、広く共有されるべきものでした。それらの課題は【いのち】【くらし】に集約されます。これらは各地の博物館・美術館・資料館・記念館を含むミュージアムの活動の核となっているものであり、ミュージアムに限らず、さまざまな団体、機関も大切にしていることです。東日本大震災後、新たに浮上してきたミュージアムの使命。それは【いのち(ライフ)】と【くらし(ライフ)】に再び誠実に向き合うことと捉え、ライフミュージアムネットワークでは、同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張していきます。

2020年度は、これまでの活動を継続するとともに、ソーシャルインクルージョン、地域資料の利活用とネットワーク構築、地域アイデンティティの再興を軸に、ライフ(いのち・くらし)に向き合うミュージアムの実践を行います。

## [ 交通のご案内 ]

二本松市市民交流センター 第2会議室(〒964-0917福島県二本松市本町2丁目3-1)

■ JR東北本線:二本松駅下車…徒歩3分・福島交通バス:二本松駅前下車…徒歩3分・東北自動車道:二本松ICより約5分

■ 駐車場のご案内:駐車場は、二本松市市民交流センター北側の立体駐車場をご利用いただけます。

※駐車料金:午前9時～午後9時の間に入場した場合1時間まで無料、以降1時間100円

## [ 申込・お問合せ ]

ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25(福島県立博物館内)

Tel : 0242-28-6000(福島県立博物館代表) e-mail : general-museum@fcs.ed.jp

HP [https://general-museum.fcs.ed.jp/page\\_about/archive/life-museum-network](https://general-museum.fcs.ed.jp/page_about/archive/life-museum-network)

